

オーストラリアの柑橘類事情(オレンジ、ソフト柑橘類)

[米国農務省GAINレポート 2025年1月2日](#)

これは米国農務省海外農業局のキャンベラ事務所(オーストラリア)が作成した「柑橘類年次報告書」の一部を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

オーストラリアの2024/25年度のオレンジ生産量は、2023/24年度の推定52万トンから54万5千トンに増加すると予測される。これが実現すれば、過去20年間で最高の生産水準を記録することとなる。この増加は、2024/25年度の生育期間前半の良好な条件と栽培面積の拡大に起因している。着果までの過程では、主要なオレンジ産地で比較的乾燥した天候の恩恵を受け、その後は平均以上の降雨量が堅調な果実の成長を支えた。さらに、通常よりも風が弱かったため、果実の傷が最小限に抑えられた。全体として、予測対象年度の初期の生産見通しは、量と質の両面で非常に前向きである。

柑橘類の生産者にとっては投入資材、特に肥料と作物保護剤のコストも安定している。さらに、主要な灌漑用水の貯水量は依然として比較的高く、2023/24年度と同様に合理的な水利費で利用できる水が十分に確保されている。

オレンジの輸出量は、生産量の増加により、2023/24年度の推計値を1万トン上回る19万トンに達すると予測される。これが達成されれば、オーストラリアの輸出量としては史上第3位となる。また、2024/25年度の国内消費量は、前年度の推定15万トンから17万トンに増加すると予測される。一方、生鮮果実の品質向上を反映して、加工仕向量は約3%減の19万5千トンと予測される。これは、それ以前に続いた通常より雨が多く生産量と果実の品質が損なわれた数年間の後、乾燥した天候条件の恩恵を受けた2023/24年度に引き続く改善を示している。

マンダリンの生産は、オレンジよりも大きな産地の広がり種なし品種への注目に支えられ、ネーブルオレンジよりもさらに急速な拡大が続いている。過去10年間で、マンダリンの栽培面積は64%増加し、多くの新植園地がまもなく成園化すると予想される。2024/25年度のマンダリン生産量は史上最高の22万5千トンに達すると予測されており、輸出も史上最高の10万5千トンと予測される。国内消費量は、主に最近の人口増加に牽引されて、過去最高に近い11万8千トンに増加すると予測される。

オーストラリアの2024/25年度のオレンジ果汁の生産量は、主に生鮮オレンジの品質向上により加工仕向量が減少したため、2%減の1万5千トンと予想される。一方、オレンジ果汁の輸入量は、2023/24年度の1万2千トンから1万3千トンに増加すると予測される。2023/24年度の輸入量が少ないのは、オーストラリアのオレンジ果汁輸入の主要な供給源であるブラジルでの深刻な干ばつにより、同国からの供給量が減少したためである。オレンジ果汁の輸出量は4千トンで横ばいと予測されるが、国内消費量は主に人口増加に牽引されて2%増の2万4,500トンと予測される。

<生鮮オレンジ>

背景

・地域の概況

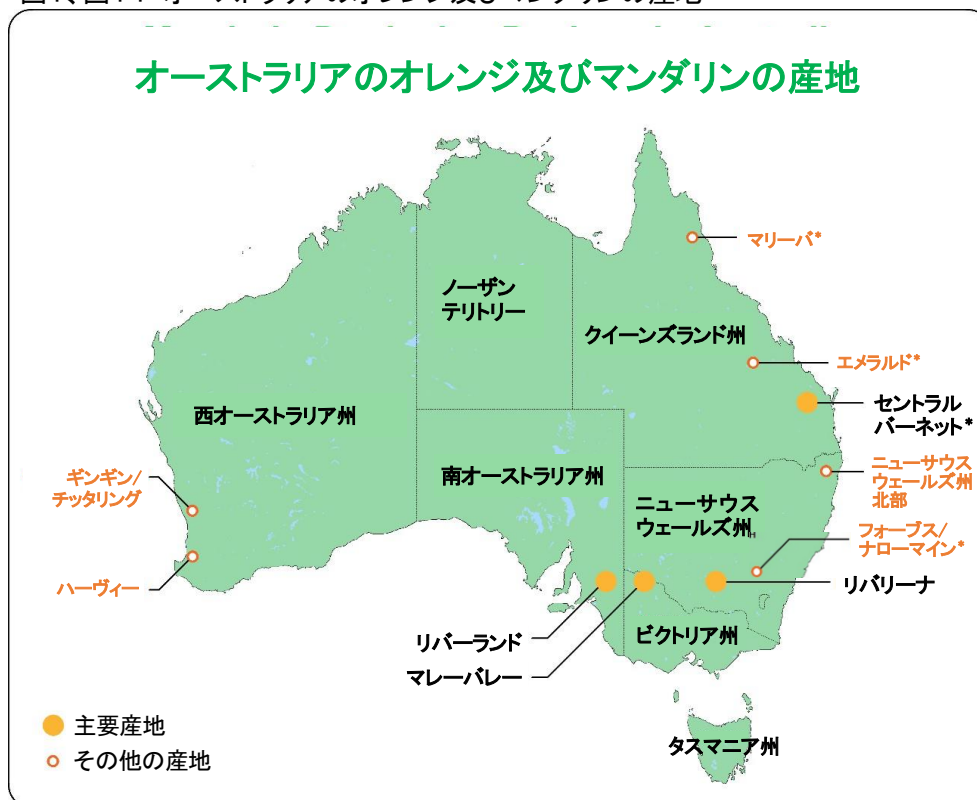
オーストラリアの主要なオレンジ産地は、信頼できる水源があり灌漑水を確保しやすい南部の温帯気候地域に位置する(図1)。これらの産地は、以下のとおりである。

リバーナ地域 - ニューサウスウェールズ州南部のグリフィス市及びリートン町の周辺

マレーバレー地域 - ビクトリア州北西部のマレー川沿いの主にミルドゥーラ市とスワンヒル市の間

リバーランド地域 - 南オーストラリア州南東部*のマレー川沿い(原文では誤って北西部と記載)

図1、図14 オーストラリアのオレンジ及びマンダリンの産地*



出典：オーストラリア柑橘類協会/オーストラリア統計局センサス/当事務所

*訳注：この図は本文中のオレンジの産地図とマンダリンの産地図を訳者が合成したものです。オレンジの産地図ではセントラルバーネットは「その他の産地」とされており、マリールバ及びエメラルドは記載がありません。マンダリンの産地図ではフォース/ナローメインは記載がありません。

これらの地域の特徴は、土壌が水はけのよい砂壤土で、温帯気候であり、年間降水量が約300mmと少なく、そのほとんどが収穫期から次期作の生育初期に当たる5月から10月の間に降ることである。冬は穏やかだが、果樹が必要とする十分な低温期間がある。これらの地域では、果樹が求める水分量を灌漑に依存している。こうした条件は、発芽を促進して潜在的な収量を高め、春から秋までの降水量の少なさと暖かい気温は降霜、湿気、降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された点滴灌漑と計画的な施肥により果実の生育が最適化されている。

これら3大産地のオレンジ栽培面積は、1万7,014ヘクタールで、全国の栽培面積の90%を占めている。オーストラリア柑橘類協会のオーストラリア柑橘類センサス2023によると、全国の合計ではネーブルオレンジが1万2,625ヘクタール、バレンシアオレンジが6,379ヘクタールである。リバーリーナ地域は最大のオレンジ産地であり、総栽培面積の約53%がバレンシアオレンジで、国内の果汁用オレンジ栽培面積の66%を占めている。ニューサウスウェールズ州北部、クイーンズランド州及び西オーストラリア州にも小規模な産地がある。

・収穫期

3大産地の収穫期は、ネーブルオレンジが通常6月から10月であり、バレンシアオレンジが通常11月から3月である。最高品質のバレンシアオレンジの一部は、(果汁用としてではなく)生鮮市場で販売され、国内産生鮮オレンジを消費者に提供できる期間を引き延ばしている。

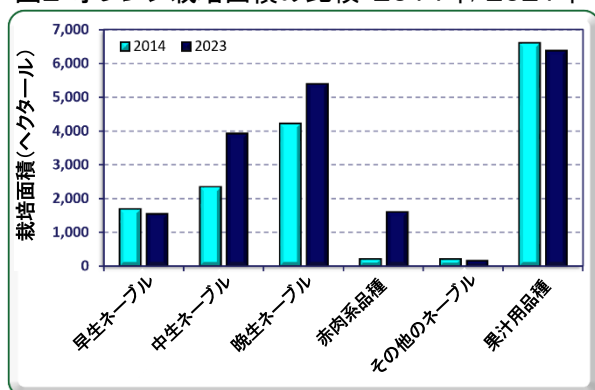
・栽培面積の動向

2014年に開始されたオーストラリア柑橘類協会の年次センサスは、植栽の傾向に大きな変化があることを明らかにした。2014年から2023年の間に、オーストラリアの主要産地全体で、ネーブル種と赤肉オレンジの栽培が顕著に増加した。これらの果樹の未結果樹から結果樹への移行は、全体的な生産量に大きな影響を与え始めている。

果汁用でないオレンジ品種の約87%はネーブル種であり、この報告書では果汁用でないオレンジをすべてネーブルオレンジとしている。また、果汁用品種の大半(85%)はバレンシア種の品種であり、この報告書ではすべての果汁用品種をバレンシアオレンジとしている。

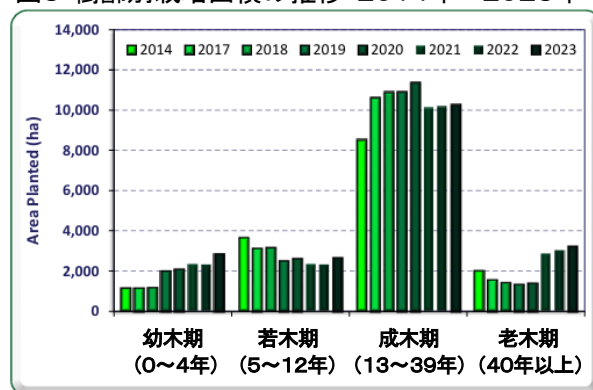
ネーブルオレンジとバレンシアオレンジを合わせた総栽培面積は、2014年の1万5,307ヘクタールから2023年には1万9,004ヘクタールへと24%増加した。この間、バレンシアオレンジの面積は4%減少し、ネーブルオレンジの面積は45%増加した。ネーブルオレンジの栽培面積の増加のうち、中生品種(67%に当たる1,571ヘクタール増)及び赤肉系品種(65%に当たる1,394ヘクタール増)はそれぞれ最大の増加を示した(図2)。

図2 オレンジ栽培面積の比較 2014年/2021年



出典: オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia

図3 樹齢別栽培面積の推移 2014年~2023年



出典: オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia

・将来の生産見通し

オレンジ生産の長期的な傾向は、栽培面積の拡大に牽引されて緩やかな成長を示している。この見通しには、いくつかの要因が寄与している(図3)。

- 1. 新植の増加:** 2019年より前の新植面積は、年間平均1,200ヘクタールであった。その後、年間新植面積は2千ヘクタールを超えて3千ヘクタールに近づいており、成木化する果樹の増加につながっている。
- 2. 結果面積の増加:** オレンジの果樹の結果面積は、何年間もの横ばいの後、2022年から2023年にかけて600ヘクタール(4%)以上増加した。2019年以降に新植した果樹の成木化が続くため、今後も同様の拡大が予想される。
- 3. 老木:** 栽培面積のうち、特に搾汁用品種で「老木期(樹齢40年以上)」の果樹の割合が増加しており、全体的な生産量の増加を和らげる可能性がある。

生産

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度(2025年4月~2026年3月)の生鮮オレンジの生産量を54万5千トンと予測する。これは過去20年間で最も高い生産量であり、2023/24年度の推定値である52万トンから5%の増加となる。この増加は、生育期間前半の良好な条件と栽培面積の拡大によるものである。

着果期及びそれ以前の期間はこの時期に典型的な比較的乾燥した天候で、最近の通常よりも雨が多かった年に比べて柑橘類にとって好ましい状況であった。着果期の後の主要産地での平均以上の降雨量は、良好な果実の肥大を促している。最終的な生理落果は、今後数週間で12月中に完了すると見られ、その後、オレンジの潜在的な生産量をより正確に決定することができる。さらに、生産者らは、9月頃によく発生する強風がなかったと報告しており、予測対象果実の果皮の品質に影響を与える擦り傷はほとんどない。一方、2024年9月に一部の果樹園で霜害が発生し、何らかの悪影響が出たとの報告がある。全体として、これまでの状況から、2024/25年度の予想収穫量と品質は非常に良好であると予想される。

また、2019年以降に植栽された果樹も成木化し始めており、生産量の増加に貢献している。オーストラリア柑橘類協会のセンサスデータによると、結果樹面積は2022年から2023年にかけて4%増加し、2024年にはさらに増加すると予想される。特に、搾汁用オレンジの栽培面積は過去5年間変動が無く、これは結果樹の増加は主に生鮮市場を対象としたネーブルオレンジの増加によるものであることを意味している。

生育条件が早い時期から良好であることに加えて、主要な投入材である肥料と農薬のコストが比較的安定しており、全般的にCOVID-19の影響を受ける以前と同じかそれを少し上回る水準である。また、灌漑用水の供給も十分にあり、業界関係者らは、これにより灌漑用水のコストが対応可能な水準に保たれているとしている。このような全般的な状況は、2024/25年度のオレンジの収穫量を最適化し、高い価格での販売量を増やそうとする生産者の取組みを後押しすることが期待される。(以下、詳細説明を省略。)

・2023/24年度

当事務所は、2023/24年度のオレンジ生産量の推計値を12カ月前の予測から1万トン下方修正し、2022/23年度の実績である51万5千トンを超えると52万トンと予測する。一部の生産者は、過去数年間の平均以上の降雨量の影響が積み重なり、オレンジの果樹に悪影響を及ぼした結果、2023/24年度の実績が予想を下回ったと指摘している。

2023/24年度の収穫期(2024年5月～2024年10月)には、主要なオレンジ産地の降水量は平均または平均以下であった。これにより、病害圧力が軽減され、果実の品質が維持された。十分な灌漑用水があったことにより、生産者は収穫に向けて果実の品質を最適化することができた。生産者は、この期間中の乾燥した天候がこの時期に予想される典型的な条件に近く、オレンジの果樹の状態が2024/25年度の生産シーズンに向けて改善されたとしている。

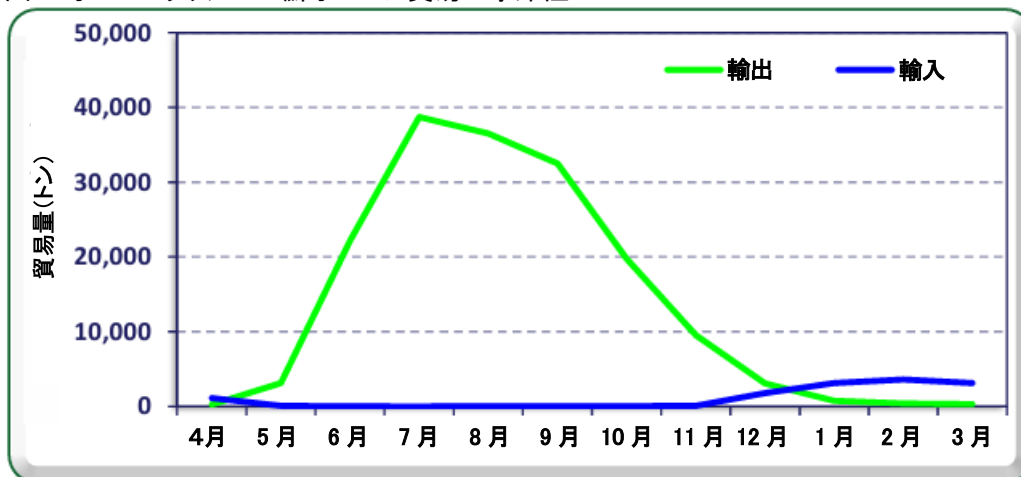
輸出

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度の生鮮オレンジの輸出量を、2023/24年度の推計値を1万トン上回る19万トンと予測する。これは、2016/17年度から2019/20年度の間には達成された18万1千トン～19万8千トンの範囲への回復となる。この期間中は、通常よりも雨の多い年に比べて季節的な条件が良好であったため、結果的に生産量や品質に良い影響を与えた。この予測が実現すれば、史上3番目に多い輸出量となる。予想される増加は、生産量の増加に加えて輸出適性を高めるとされる高品質な果実の復活への期待を支えるものである。

輸出は生産量と品質に大きく影響される。全体的な品質が高いシーズンには、輸出市場に適した生鮮オレンジの割合が高くなり、搾汁に向けられる低規格品は減少する。

図8 オーストラリアの生鮮オレンジ貿易の季節性



出典: オーストラリア統計局

オーストラリアの生鮮オレンジ輸出は季節性が高い。北部の産地からの少量の輸出は5月に始まるが、大量の輸出は3大産地の収穫が開始される6月に始まる(図8)。7月から9月までが最盛期で、その後12月にかけて輸出量が減少する。この収穫のタイミングにより、オーストラリアは生産量が少ない近隣のアジア諸国及び季節が逆になる北半球諸国にネーブルオレンジを輸出することができる。

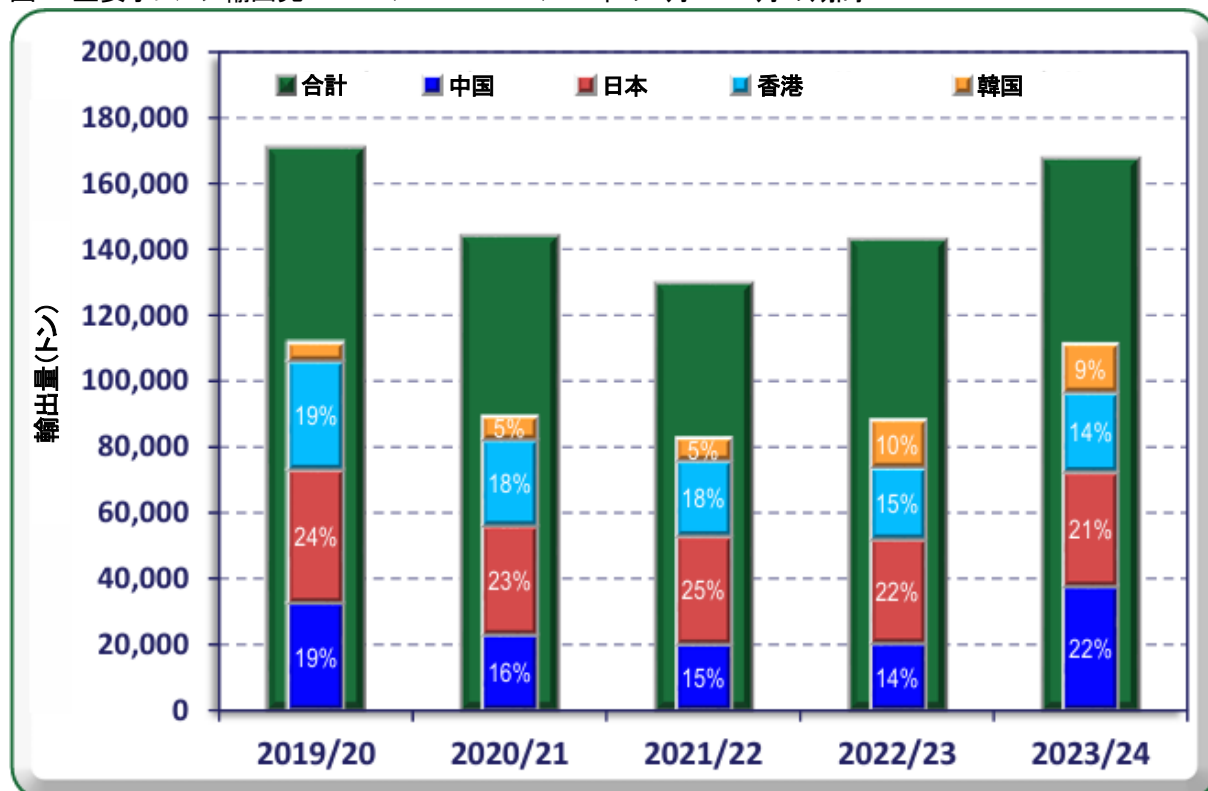
・2023/24年度

当事務所は2023/24年度の輸出量の推計値を18万トンで据え置き、これは12カ月前に発表した予測と一致している。2023/24年度の(2024年)4月から10月までの輸出量は16万8千トンであった。従来から、販売年度の後半5カ月が年間輸出量の平均8%を占めており、この傾向は現在の予測を裏付けている。

近年のオーストラリア産オレンジの主な輸出先は、日本、中国、香港であり、2022/23年度には韓国が重要な輸出先として浮上した。これら4カ国は、通常、輸出量全体の60%以上を占めている(図9)。全体として、オーストラリアは40カ国以上に生鮮オレンジを輸出しており、主要輸出先のほとんどがアジアの国々である。

中国向け輸出は2023/24年度に急増して総輸出量の22%を占め、2019/20年度よりも前に5年連続で保持していたオーストラリアの最大の輸出先としての地位を回復した。業界関係者は、中国は高品質で大玉のオレンジを好むと指摘している。3年間にわたって平均以上の降雨量が続き、果実の品質と生産量に悪影響を及ぼした後、2023/24年度の収穫物は2019/20年度以来の高品質となった。2024/25年度には、果実のサイズと品質がさらに向上すると予想されており、中国への輸出がさらに増加する可能性がある。2016/17年度から2018/19年度までの中国への輸出量は5万トンから6万トンで、オーストラリアのオレンジ総輸出量の28~35%を占めていた。

図9 主要オレンジ輸出先 2019/20~2023/24年の4月~10月の期間



出典：オーストラリア統計局

表1 オーストラリアの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ(生鮮) 販売年度の始まり オーストラリア	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	17,800	17,800	17,900	19,000	0	19,500
収穫面積(ヘクタール)	15,400	15,500	15,500	16,200	0	16,600
生産量(千トン)	505	515	530	520	0	545
輸入量(千トン)	10	10	10	10	0	10
総供給量(千トン)	515	525	540	530	0	555
輸出量(千トン)	160	153	180	180	0	190
生鮮国内消費量(千トン)	145	162	160	150	0	170
加工仕向量(千トン)	210	210	200	200	0	195
総仕向量(千トン)	515	525	540	530	0	555

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<タンジェリン/マンダリン>

背景

オーストラリアのマンダリン及びタンジェリンの産地は、オレンジの3大産地よりもはるかに広がり大きい。オーストラリアではタンジェリンも生産されているがその面積は非常に小さいため、タンジェリン/マンダリンの生産量のほぼ全量がマンダリン品種であり、アフォーラ、インペリアル、マーコット(及びこれらの派生品種)が栽培面積全体の77%を占めている(出典: オーストラリア柑橘類協会 柑橘類センサス2023)。

オーストラリアのマンダリンの主な収穫時期は5月から9月である。しかし、産地は多様であり、マンダリンの収穫期間は3月から10月までの幅がある。

クイーンズランド州のマンダリン栽培面積は4,635ヘクタールと突出して多く、国内の栽培面積の52%を占めている。次に栽培面積が多い地域はビクトリア州マレーバレー地域(1,598ヘクタール、18%)と南オーストラリア州リバーランド地域(1,392ヘクタール、16%)である。クイーンズランド州最大のマンダリン産地は、同州南東部のガインダ町とムドゥッパ町の周辺のセントラルバーネット地域であるが、エメラルド地域(同州中部)とマリーバ地域(同州最北部)でも生産されている。ニューサウスウェールズ州北部、北部準州、西オーストラリア州にも小規模なマンダリン産地がある。

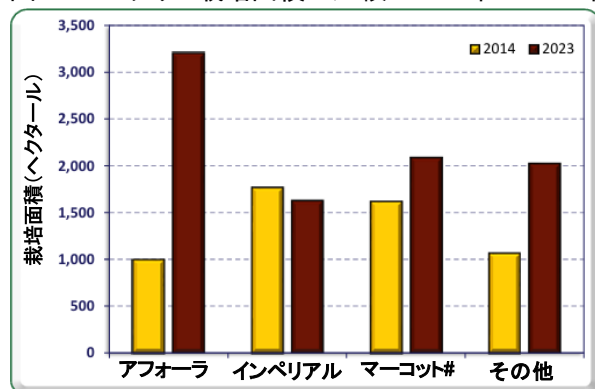
果樹センサスのデータ収集が開始された2014年から2023年までの間に、マンダリンの栽培面積は5,451ヘクタールから8,948ヘクタールへと64%増加した。これは、成長率と拡大実面積において同じ期間のオレンジの増加を上回っている。また、この拡大はオーストラリアのすべての産地で広く起こっている。

アフォーラ品種(アモレット及びタンゴを含む)は、2014年から2023年の期間に、その栽培面積が998ヘクタールから3,202ヘクタールへと最大の拡大を示し、現在では明らかに支配的な品種となっている(図15)。マーコット品種(種子の少ないハニービー及びロイヤルハニーを含む)の面積も同じ期間に29%拡大した一方、古い品種であるインペリアル(ゴールドアップ及びアバナを含む)は8%減少した。「その他」にはタンジェロ等29品種が含まれ、その総栽培面積は90%(959ヘクタール)増加した。「その他」の品種の中で栽培面積が最も増加したのは、デイジー、フェニックス、タンゴで、すべて比較的新しく、種子が無いかまたは少ない品種である。

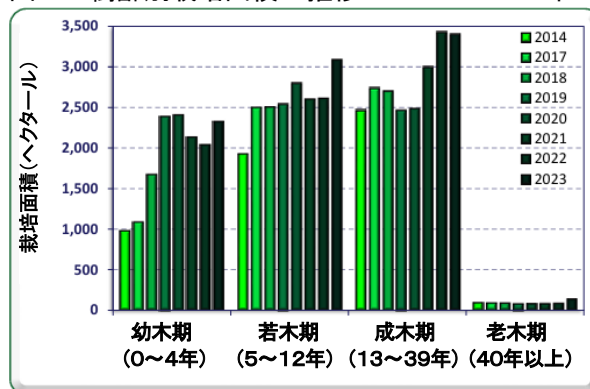
2014年から2023年にかけてのマンダリンの栽培面積の拡大は、未結果樹(樹齢0~4年)の栽培面積が1,348ヘクタール以上(138%)増えて2,326ヘクタールに達したことも明白に表れている(図16)。しかし、新植の率は過去2年間で低下した。生産が始まる若木期(樹齢5~12年)の果樹の栽培面積は、2023年に522ヘクタール(20%)急増するまでほぼ横ばいであった。この生産が始まる樹齢の果樹は、果樹総本数の

3分の1以上を占めている。同じ期間に成木(樹齢13~39年)の面積は940ヘクタール(38%)増加し、2021年と2022年の増加が最も大きかった。2023年のマンダリンの樹齢分布の4分の1が未結果樹であり、老木(樹齢40年以上)の面積が非常に少ない。現在の未結果樹が結果し始めるため、業界は今後数年間、生産量の急速な増加を期待できる。

図15 マンダリン栽培面積の比較 2014年/2023年 図16 樹齢別栽培面積の推移 2014~2022年



出典: オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia
種子の少ない品種を含む



出典: オーストラリア柑橘類協会/ Horticulture Innovation Australia

生産

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度のタンジェリン/マンダリン生産量が史上最高の22万5千トンになると予測しており、これは2023/24年度の21万トンから7%の増加となる。この増加は、主にマンダリンの栽培面積の増加によるものである。

先に概説したとおり、オーストラリアのマンダリンの栽培面積は、過去10年間で急速に成長した。注目すべき点は、2017年から新植(4年間結果しない)が大幅に増加し、2019年からは高い水準を維持していることである。生産が始まる若木期の面積が2023年に大幅に増加しただけでなく、2021年と2022年には成木の面積が急増したため、これは現在大きな影響を及ぼし始めている。生産が始まる樹齢5~12年の果樹の面積は、樹齢13~39年の成熟した果樹の面積とほぼ同じである(図16)。

栽培面積がこれ以上拡大しなくても、成熟して最大の生産能力に達する若い果樹が増えていることから、数年間は毎年のマンダリン生産量が増加すると予想される。この傾向は、2024/25年度の記録的な予測を裏打ちしており、その後の数年間でさらに記録が期待される。しかし、条件の悪いシーズンがあると、対前年比での毎年の記録更新が妨げられる可能性がある。

オレンジの生産者と同様に、マンダリン生産者も予測対象年における十分な灌漑水の確保と肥料・農薬のコスト低下の恩恵を受けることを期待している。

・2023/24年度

2023/24年度のマンダリン生産量は21万トンと推定され、12カ月前の予測を3万トン上回っている。この増加は、隔年結果の裏年であることから当初は予想されていなかった。しかし、結果樹面積の約8%の増加は、この隔年結果を埋合せる以上のものである。さらに、主要な産地での良好な生育条件が、このシーズンの優れた品質に貢献している。

輸出

・2024/25年度

当事務所は、2024/25年度のマンダリン輸出量が2023/24年度の9万7千トンを上回り、10万5千トンの新記録に達すると予測する。マンダリンの栽培面積の継続的な拡大と最大の生産量に達する果樹の成木化により、今後、生産量と輸出量が記録破りの水準に押し上げられると予想される。

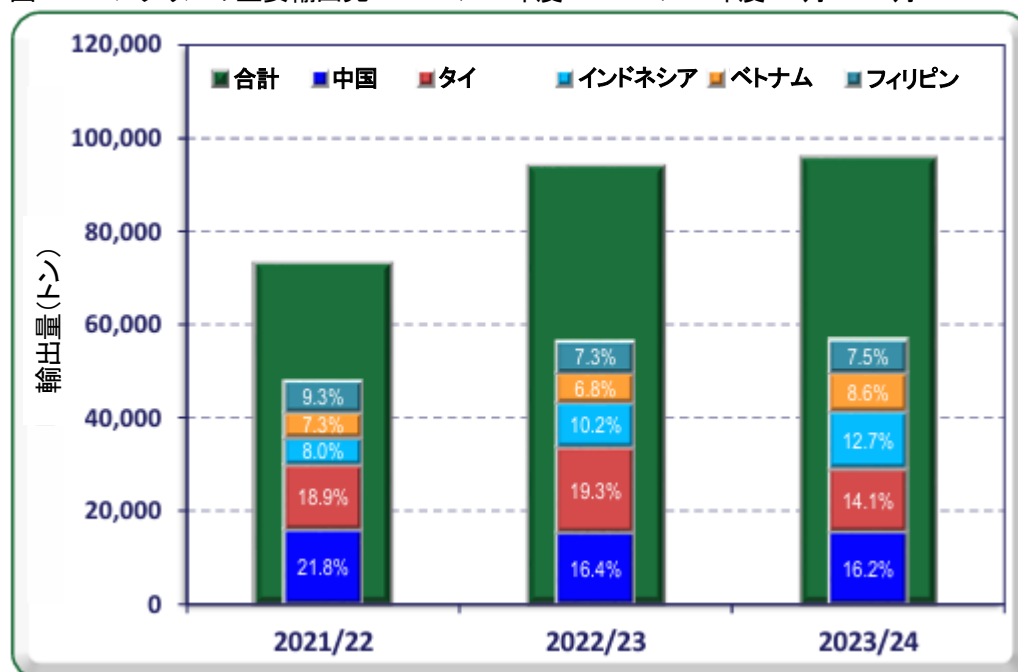
オーストラリアのマンダリン輸出は非常に多様化しており、約40の輸出先に出荷されている。上位10市場を合わせると、過去3年間の総輸出量の約85%を占めている。輸出先は均等に分散しており、単独で支配的な国はない。

・2023/24年度

2023/24年度のマンダリンの推計輸出量は、12カ月前の当初予測の8万5千トンから9万7千トンに上方修正された。この修正は、予想を大幅に上回る生産量を反映している。2024年4月から10月の期間の輸出量は合計9万6千トンで、この期間だけで平均年間輸出量の99%近くに達している。この実績は既に、前年の年間輸入量の9万5千トンを上回っている。

近年、中国とタイが一貫して主要な輸出先である。2023/24年度にはインドネシアへの輸出が急速に増加し、中国やタイに迫る重要な地位を占めた(図17)。ベトナムとフィリピンも主要な市場であり、近年は総輸出量の7~10%を占めている。輸出先上位10カ国に含まれる残りの5カ国は、それぞれ総輸出額の約5%を占めており、オーストラリア産マンダリンの多様化した市場基盤を際立たせている。

図17 マンダリンの主要輸出先 2020/21年度~2022/23年度 4月~10月



出典：オーストラリア統計局

表3 オーストラリアの生鮮タンジェリン/マンダリンの生産需給統計

タンジェリン/マンダリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年4月		2024年4月		2025年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
販売年度の始まり						
オーストラリア						
栽培面積(ヘクタール)	7,900	8,200	8,000	8,900	0	9,500
収穫面積(ヘクタール)	5,800	6,100	5,900	6,600	0	7,000
生産量(千トン)	190	215	180	210	0	225
輸入量(千トン)	2	1	2	2	0	2
総供給量(千トン)	192	216	182	212	0	227
輸出量(千トン)	95	95	85	97	0	105
生鮮国内消費量(千トン)	94	117	94	111	0	118
加工仕向量(千トン)	3	4	3	4	0	4
総仕向量(千トン)	192	216	182	212	0	227

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。